

可児市の事例

視察名： 可茂衛生施設利用組合「ささゆりクリーンパーク」（岐阜県可児市）
協力者： 青山係長、羽賀主任（以上、可茂衛生施設利用組合総務課）
日時： 2004年12月24日、13:30～16:00
場所： ささゆりクリーンパーク
担当： 陣内

ア．施設概要

- ・平成11年3月完成
- ・可茂衛生施設利用組合により建設
- ・上記組合は、美濃加茂市、可児市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町など2市9町村で構成
- ・施設は、エコサイクルプラザ（環境学習施設、可燃ごみ処理施設＝焼却炉 240t/hr、熔融炉＝60t/24hr 不燃物処理施設）、最終処分場（熔融スラグ埋め立て地）、わくわく体験館（宿泊施設、ガラス工房、体育館など）、遊林の森からなる。
- ・売電は行わず施設内で使用（安定性がないため中部電力がOKださず）

イ．立地選定過程など

- ・美濃加茂市に焼却場が立地。人口急増のためパンク寸前。
- ・可児市の人口が平成2～3年に急増。その後も名古屋市のベッドタウンとして人口が増加。つまり可児市のゴミ排出量も急増。このことから、可児市が新規施設の引き受けてとして手を挙げた。
- ・自己完結型の循環型処理施設を目指す。
- ・土地は全て買い取り。周辺も含めてかなり広く買い取った。
- ・上記2市9町村のおおむね最南端に位置する。このため、最長で約70キロの搬入距離。

ウ．地元対応など

- ・40年間という協定を地元自治会と結んでいる。
- ・反対はずっとある。
- ・地元自治会で一軒一票で住民投票した。
- ・稼働状況などは全て自治会へ報告している。
- ・環境保全委員会（自治会住民などによる）が建設時から監視する体制。
- ・環境測定もキチンと行う。測定時の立ち会いも環境保全委員会に依頼。
- ・現在でも交通量調査を春と秋に行っている。（搬入車両数チェックのため）

エ．還元施設など

- ・わくわく体験館のガラス工房ではガラス工芸スクールを常時開催。リサイクル瓶を材料にする。（ガラス工房は15年度実績は約1万人）
- ・体育館もよく使われる。
- ・宿泊施設は一年間通して利用者あり。（15年度実績は約2100人）

オ．その他

- ・調査当日もガラス工房ではガラス工芸スクールが行われ、専門家の指導のもと市民たちが熱心に取り組んでいた。
- ・ガラス工房の作品は販売している。ガラス瓶などリサイクル材料を使ったものが売れるのである。
- ・また、宿泊している若者数名、浴場利用の地元住民風の市民数名もみた。（宿泊棟の浴場は100円で宿泊客以外も利用可）
- ・ごみ処理場というイメージは全く吹き飛んでしまった。塩谷広域が目指すものにはかなり近いのではないだろうか。



ささゆりクリーンパークは、県下初の灰溶融炉、最新の排ガス処理施設、排水クローズ化など、万全の公害防止処理と徹底したごみの分別による資源化处理、埋立物となる溶融スラグのリサイクル化を図っており、『廃棄物ゼロの循環型処理』を目指した処理を推進しております。

また、施設内には環境問題やごみ問題について、住民が気軽に研修、啓発ができる施設「リサイクルプラザ」や、宿泊やガラス工芸など各種体験を通して研修する施設「わくわく体験館」があります。そしてこれらの施設に隣接する豊かな緑には展望台やアスレチック、広場が設けられている「遊林の森」など、自然の美しさや環境保全の大切さを学べる施設となっております。